

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所みらい		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日	～	令和8年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日	～	令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者から家庭やこども園の情報を聞き取り、様々な情報を踏まえて個別支援計画を作成し、支援内容の検討に活用している。	・相談やモニタリングの時間を十分に設け、保護者の悩みや相談を聞きながら、家庭での関わり方や、こども園での課題など保護者と一緒に共有できるようにしている。	・児発管として日頃より保護者と関わりながら、「相談したい」「聞いてほしい」という安心感を得られるよう努め、子育てと一緒にやっていけるようにしていきたい。必要に応じて、療育の立場としてこども園を訪問し、集団での姿を踏まえて、さらに個別支援計画に支援課題を取り入れていけるようにする。
2	・支援後に保護者へ利用児の様子を伝える際には、どんな思いがあったからどんな姿に繋がったのかなど、具体的な事例を通して保護者に課題を伝え、利用児の課題や成長したことなど、丁寧に共有している。	・毎回の支援後に話をすることは難しいこともあるが、時間があるときには保護者に丁寧に状況を伝え、利用児の特性や課題について情報共有するようにしている。また支援記録を毎月渡しているため、書面でも確認できるようにしている。	・今後予測されることも踏まえて利用児の特性など丁寧に伝え、どんな対応が必要なのか、有効な支援について適切な助言を引き続き行っていく。また職員間でも、利用児一人一人に関する情報を共有し、様々な視点でとらえながら、課題の確認を行い、支援内容に取り入れていけるよう配慮する。
3	・他の市町村運営の事業所との情報共有や連携がとりやすいことや、研修への参加ができており、専門的知識を増やし業務にあたる事ができている。	・他の事業所の支援を見学したり、研修会への参加を積極的に行っている。	・事業所内研修を充実させ、職員それぞれが学びを重ね、知識を増やし支援を提供したり、保護者に対し適切なアドバイスができるよう努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員数が少ないこと。	・支援体制等、事業所運営に関する検討を法人内でしっかり話し合い、方向性を見極めていけていないこと。	・どのような支援を行い、利用児の発達を促していくとよいのか、支援内容を含め検討し、人員配置や支援体制など利用児のニーズに合わせた支援を検討していく必要がある。
2	・関係機関との連携が弱いこと。	・対応できる職員が限られていること。 ・発達支援センターとの仕事のすみわけができていないこと。	・様々な業務を受け入れてしまい過ぎていることもあるので、一事業所としてできることを再度検討し、1つ1つの業務を丁寧にやっていくよう努める。
3	・保護者会がないため保護者同士の繋がりが弱いこと。	・保護者の交流の場の必要性を感じているが、どのような場を提供できるのかなど具体的な提案がなく、年間行事に組み入れていけていないこと。	・保護者が参加できる行事を取り入れることや、アンケートを実施しながら保護者のニーズを確認していく。